慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	バウリ女史著 ナッソォ・シィニィオアと古典経済学
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1937
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.31, No.9 (1937. 9) ,p.1391(161)- 1397(167)
JaLC DOI	10.14991/001.19370901-0161
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19370901-0161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

のは、單に客觀に對して主觀を對立せしめるのではなく、主觀的環境投影なる要因を、中心とする環境研究に發足してゐるからであるとすれば、それだけこの環境の主觀的要因は、彼自身に於いて、更らに熟考せられ、遙かに明瞭な説明を以つて吾々に提供せられたらんには、彼の貢献は更らに大なるものであつたであらう。

（昭和十二年八月五日）

バウリ女史著『ナッソォ・シィニィオアと古典經濟學』

高橋誠一郎

吾人が爰に紹介せんとする『ナッソォ・シィニィオアと古典的經濟學』(Nassau Senior and Classical Economics.) はバウリ教授（Arthur L. Bowley）の令孃であり、昨年三月倫敦大學に於いて哲學博士（經濟學）の稱號を授けられたるバウリ女史（Marian Bowley）の學位論文であつて、本年倫敦に於いて出版せられたものである。

女史は一千九百二十八年より同三十一年に亙つて倫敦經濟學校（倫敦大學）に學び、經濟學得業士の稱號を得、其の後、フランクフルト・アム・マイン及び維納に學び、アバーリストウィズのウエールズ大學校の經濟學及び統計學臨時講師、倫敦經濟學校研究生、バーミンガム大學經濟學及び統計學臨時講師を經て、今現に牛津エコノミスト・リサーチ・グループの研究書記の職に在る篤學の婦人である。

シィニィオアは一千八百二十五年より同三十年に亙り、牛津大學ドラモンド教授（Drummond Professor）として、英國の銀行家にして又政治家であつたヘンリィ・ドラモンド(Henry Drummond)によつて初めて牛津大學に開設せられた經濟學の講座を擔任し、更らに一千八百四十七年より同五十二年に亙つて再び之れを擔當した。彼れが前の教授時代に於いて行へる多くの講義は或ひは別箇に刊行せられ、或ひは一千八百三十六年の名著 Outline of

Political Economy. 中に包含せられてゐる。然るに、彼れが後の教授時代に於いて行へる講義は僅かに其の五篇が出版せられたに過ぎない。未刊行講義の内容は全く世に知られなかつたのであるが、歐洲大戰前、是れ等兩期間に於ける未刊行講義の稿本を求めて渡英せるコロムビア大學教授セリグマン（Edwin R. A. Seligman）氏の激勵を受けたるリアン・リヴィ（S. Leon Levy）氏によつて、倫敦「スペクテータァ」誌の前主幹兼發行者故ストレーチ（J. St. Leo Strachey）氏の夫人にして、シィニィオアの令孫に當るストレーチ女史の所有せるシィニィオアの未刊書類の大蒐集中に發見せられた。講義草稿の外、此の書類中に在つて最も重要なるものは救貧法及び一千八百三十四年の救貧法改正法案の通過に對するシィニィオアの態度に關する種々なる文書である。リヴィ氏はシィニィオアの稿本を整理し、拔萃し、之れを二卷に纂輯して一千九百二十八年ストレーチ夫人の卷頭の辭を附し、Industrial Efficiency and Social Economy, by Nassau W. Senior, original MSS, arranged and edited by S. Leon Levy. と題して刊行した。然しながら、リヴィ氏はシィニィオアの著作の重要性を、其れ自體に於いても、又、全體としての經濟理論の發達に對する關係に於いても論述せんとすることがなかつた。バウリ女史は斯くの如き缺陷を補ふが爲めに、シィニィオアの經濟理論に關する既刊書、彼れが時事問題に關して起稿せる多數の小冊子及び論文、並びに凡そ一千八百四十八年以後の愛蘭及び大陸旅行に際して記せる日誌と共に、前記ストレーチ未亡人の所藏に係る大部の書類を利用して、本書を著したのである。（Bowley, Nassau Senior, pp. 9-10.）。

女史に從へば、シィニィオアの既刊書は、彼れをして單なるリカードオの學徒として分類せらるゝを許すが爲めには餘りに示唆的であり獨創的であるが、さればと云つて、彼れを新學派の創設者の地位に陞すが爲めには餘りに斷片的である。（ibid., p. 15.）。女史の意見に據れば、古典經濟學なる名稱はリカードオ經濟學と同一視せらるゝこと餘りに嚴密に過ぐるに至れるものである。固より斯くの如きは用語の問題ではあるが、而も若し這般の名辭にしてリカードオ及び其の學徒と略々同義であると解釋せらるゝならば、シィニィオアを古典經濟學者中に包含するには幾分の困難を伴ふ可きである。蓋し、シィニィオアはリカードオに就いて極めて批評的なるが故である。女史はシィニィオア經濟學の特色を以つて下の三點とする。（一）彼れがジェ・ベェ・セイ及びシュトルヒの影響を受けて、財貨及び勤務の兩者に就いて效用價値理論を是認し精練せること、（二）彼れがリカードオの生產費說及び完全なる競爭の推定に對して批評的態度を取れること、（三）彼れがマルサスの人口理論に對して異議を有したること是れである。若し古典經濟學者なる名辭がリカーディアンなる名辭と交替的に使用せられ得るならば、シィニィオアも、ロングフィールドも、ダブルユー・エフ・ロイドも、其の他セリグマン教授の注意を引ける「閑却せられたる英國經濟學者」の如何なる者も（cf., E. Seligman, Some Neglected British Economists――Economic Journal, 1903, reprinted in his Essays in Economics, 1925.）、又、佛蘭西經濟學者も、悉く皆、此の名辭の下に包含せらるゝを得ざるものである。（ibid., p, 16.）。

吾人は拙著中に於いて所謂「古典學派」なる名稱に附せられたる種々なる意義に就いて少しく說明を施した。（昭和十二年版『經濟學史』上卷九一―一二頁）。而してマルサスがリカードオ學派を呼んで、アダム・スミス及び彼れ自身の其れより對別せられたる「經濟學の新學派」と稱したことをも亦、之れを記した。（同書四七三頁）。而も吾人はリカードオに於いて古典經濟理論の完成を見ると共に、其の直後に於いて、彼れの經濟理論に對する修正意見を表明せる者として、マルサス、アトキンソン、トーレンズ、ベーリィ及びウェストに次いでシィニィオアを觀た。（同書第六章參照）。尙ほ又、リカードオ經濟學に對する叛逆者たるジェヴォンズが、あらゆる貨物の效用最終度位が結局減

少すると做す大原理は彼れ以前に於いて明確に表明せられたことは殆んどなかつたとは云ひながら、而も幾多の經濟學者の著作中に包意せられて居つたことを認め、玆にシィニィオアの「多樣性の法則」を掲げたることを注意し、前者の欲望の理論に關する名著の路を開きたるものとして後者の名を擧げた。（『三田學會雜誌』第三十一卷第四號所載拙稿『第十九世紀英國反正統派經濟學』二八頁其の他參照）。

バウリ女史はリカードオ逝去の年たる一千八百二十三年と、ジェヴォンズが其の新學說を劍橋に於いて開催せられた英國協會のF部に於いて報告せる一千八百六十二年の間に於ける價值理論の發達に關する彼の女の解釋が正しいとしたならば、英國に於いてすら、古典學派若しくはリカードオ學派及び效用學派なる二個の相異れる學派が幾分時代を同じうして存在せることを承認せざるを得ざるか、然らざれば、古典的なる名辭は其の狹き意義より分離せられざるを得ざるかの孰れかであると主張する。而して彼の女の選べる進路は後者であつて、彼の女は古典學派なる名稱を、直接若しくは間接にアダム・スミスよりインスピレーシヨンを承けたるジェヴォンズ以前の經濟學者等の總べてを包含するが爲めに使用する。

吾人が多數の經濟學史家と共に比較的緩かに解釋し、さまで嚴密に限定するの必要を認めなかつた所謂古典學派の範圍に關し、女史が甚しく力を籠めて、前述の如くジェヴォンズ以前に於けるスミスの影響を受けたる總べての經濟學者を包含せんことを主張する所以は二つである。第一には、價值理論（分配理論を含めて）の歷史は、自然價格及び市場價格理論として、又、勞働價值理論としてのアダム・スミスの價值論に關する二個の解釋の發達及び後の相互作用として觀察せらるゝの時、最も鮮明に論述せらるゝを得ると云ふに在る。第二には、斯くの如く此の名辭を使用するは「自由放任」に對する經濟學者の態度を論議するに際して一般に使用せらるゝ所と一致するが爲めである。即ち古典經濟學者は概してアダム・スミス及び哲學的急進主義者によつて皷吹せられたる自由主義者と看做さるゝが故である。而して女史はシィニィオアを以つて、古典學派の第二世代に屬するものと觀る。（ibid., pp. 17-18.）。

斯くて著者は其の書を二部に分ち、第一部に於いては全然經濟理論を取扱ひ、アダム・スミスよりジェヴォンズ及びメンガーに至る經濟理論の發達は革命的發見の連系たるよりも、寧ろ、不斷の進化過程であつたこと、又シィニィオアの寄與は、英國及び大陸の兩者に於いて第十九世紀の前期を通じて行はれたアダム・スミス理論の種々なる發達を綜合せんとする一企圖として這般の過程に於いて顯著なる意義を有するものであつたことを主張する。彼の女は先づ其の第一章「對象及び方法」に於いて、マルサスとリカードオの論爭より始めて、マカラック、トーレンズ及びジェ・べー・セイの意見を考察し、（ibid., pp. 30-42.）、次いで一千八百二十六年の牛津に於ける『序講』以後、同四十七年の牛津大學復歸以前に於けるシィニィオアの見解を述べ、（ibid., pp. 42-52.）、第三に、牛津復歸より一千八百五十二年再び之れを辭するに至る迄の彼れの最後の見解に就いて論ずる。（ibid., pp. 52-65.）、第二章「價值理論」に於いては、簡單にアダム・スミス、佛蘭西經濟學者、特にセイ及び其の直接繼承者、リカードオ及び其の學徒、ローダデール及びマクラウドの如き著しく時代の隔絕せる經濟學者を包含する英國の「分離者」と稱せらるゝを得可き一團、フッフェランド（女史は常に Hüfeland と綴るも、恐らくは Gottlieb Hufeland を指すものであらう）よりフォン・マンゴルトに至る獨逸理論家、殊にヘルマンの價值學說を擧示して、價值學說に對するシィニィオアの貢獻と第十九世紀前半の他の經濟學者の其れとの間の關係を檢討する。（ibid., pp. 66-116.）。次いで、著者は逐次、人口及び賃子（レント）、資本及び利子、賃銀、貨幣及び國際貿易に關するシィニィオアの學說を考察する。

（ibid., pp. 117-234.）。

著者は本書の第二部に於いて、政府の干渉及び社會政策に關するシィニィオアの意見の發達、並びに救貧法問題に對する其の態度に就いて述べる。(ibid., pp. 237-334.)。シィニィオアは彼れと同時代の人及び後世の歷史家によつて獨斷的改革家、救貧法のデモ破壞者として惡口せられ、又、マンチェスターに於ける紡織工場の純利益は十二時間の勞働時間中、其の最後の一時間の產物であると稱して工場法反對の意見を表明せるが爲めにカール・マルクスによつて愚弄せられ、眞面目なる考察を社會問題に關する彼れの眞意見に加ふるは總べて無用の贅事であると看做されて來た。斯くの如き態度は、シィニィオアが政策の問題に關して自己の名を以つて其の意見を公にしたること極めて少なく、又彼れの最もよく知られたる出版物 Letters on the Factory Act as it affects the Cotton Manufacture, 1837. が誤解を蒙り勝ちなる限りに於いては或る程度まで恕せらる可きものである。政府の干涉の正當視及び可能性に關する彼れの觀念の最重要なる敍述は一千八百四十七年より同五十二年に亙る牛津に於ける講義の第二集團に於いてのみ惟り之れを見ることを得可きものであるに拘らず、是れ等の講義は方法に關するものを除いては未だ出版せられてゐない。バウリ女史は是れ等後年の講義並びに彼れが初期の既刊未刊書の研究に據つて、シィニィオアは經濟事項に於ける政府干涉の理論及び實際に關する何等極めて明確なる觀念を有することなく、單に社會問題に對する大なる關心を以つて出發せりと做すの結論に到達した。而して彼れの最後の態度は彼れが經濟學の本質及び對象に關する論述に於ける變化中に反映せられたる進化の漸進的過程の結果であつたやうに見える。(ibid., pp. 237-238.)。而して女史を以つて觀れば、經濟學の對象及び方法の問題に對するシィニィオアの態度は、現代經濟學者等の其れと多く異なることなきものであつて、之れが解決に對する彼れの寄與は最近五六十年間の其れの多くを豫示せるものである。(ibid., p. 65.)。

本書の强みは言ふ迄もなく、著者がシィニィオアの未刊行書類を利用し得たることに存する。一千八百三十六年に於ける『經濟學概要』の出版と共にシィニィオアの經濟學に對する貢献は不幸にして早く終を告げたりと做す一般經濟學者の見解、例へばタウシッグの其れの如きはストレーチ未亡人の所藏書類の發見と共に解消す可きものである。(F. W. Taussig, Wages and Capital. An Examination of the Wages Fund Doctrine, 1899, p. 198.)。此のシィニィオア研究上の貴重文献は前述の如く、既にリヴィ氏によつて整理せられ按排せられたのであるが、バウリ女史は其の成果に對して甚しく不滿なるが如くである。(Bowley, p. 15n. 其の他參照)。女史はシィニィオアの既刊及び未刊の著作全部を利用して彼れの業績の全貌を描寫せんことを期せるものである。兎に角、吾人は吾人の利用し得ざる重要資料の一部がリヴィ氏並びにバウリ博士の努力に由つて吾人の窺知し得る所と爲れるを深く欣ぶものである。

（菊判、三五八頁、三越洋書部賣價金十二圓七十五錢）